祖父は職人

大田 彩乃［愛媛県］

私の家は、車屋さんだ。田舎にあるそんなに大きくはない車屋さん。そこで私の家族は働いている。

私は小さい頃、たくさん夢があった。その中の一つに「車の塗装をしたい」という夢があった。これは祖父の影響である。祖父は、車の塗装をする仕事をしている。父や母、祖母、父の弟は車の整備や営業、車検などをしている。祖父だけ仕事内容が他の人と違う。そんな家族の中で唯一というところに最初はひかれたのだった。祖父の仕事に興味を持った私は、祖父の作業場にたくさん行くようになった。作業場にはいろいろな物が置いてある。塗料の入っている缶、紙やすり、塗料と混ぜる薬品、スプレー、ブラシ……何も知らない私には全部が新鮮で魔法の道具に見えた。気になる物があると、質問をした。祖父が作業を始めると、じっと横から眺めた。そのたびに祖父は優しく丁寧に、幼い私でも分かるように説明をしてくれた。しかし、塗装中は薬品や塗料を使うため、近くで見ることはできない。そんな時間は退屈でもどかしかった。でも、嫌いじゃなかった。作業が終わって時間がたつと、その部屋に入れてくれた。私は感動した。塗装前に色を落とされグレーになっていたパーツが元通り、いや、それ以上につやのあるきれいな白に染まっていたのだ。これは祖父にしかできない魔法のような技術だと思い、心から尊敬した。傷が無くなり、きれいになった車をお客さんにお返しする。その場にはいつも祖父はいない。ただ、嬉しそうに車に乗って帰られるお客さんを見ると、私は祖父が誇らしくて笑顔になるのだった。歳をとっても職人のように仕事をしている祖父は、今でも私の憧れの存在である。

私の家は、車屋さんだ。田舎にあるそんなに大きくはない車屋さん。そこで私の家族は働いている。今日もたくさんのお客さんの車を修理している。大切な車を直し、笑顔で愛車と共に帰ってもらえるように。